



平成29年度 大学コンソーシアムやまがた事業報告書

大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業

(担当：企画会議)

1 「高等教育山形宣言」プロジェクト

平成22年2月23日に発表した「ゆうキャンパス—学長等共同宣言 美しい山形から「もう一つの人づくり」を目指して」の内容を実現するため、学生が企画・実施する「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」を2件採択、実施。

○平成29年度 採択プロジェクト一覧

1. 企画名：地域産業に向けた3Dプリンタを活用したAMデザイン作品の実演展示

団体名：鶴岡高専 AMデザイン部、代表 田村 隆一（鶴岡工業高等専門学校）

目的：AMデザイン部が全国高専デザインコンペティション用に社会実装を目指し製作した作品を庄内地区産業まつり（さかた産業フェア2017、つるおか大産業まつり2017）において、地域企業、地域住民へ紹介する。また、実演・体験を通じ、3Dプリンタを活用したAMデザインの重要性や身近な技術として広く認識してもらうことを目的とする。

内容：全国高専デザインコンペティションに向けて制作した作品を庄内地区産業まつりで実演展示し、地域企業、地域住民に体験してもらい、生活利用に向けた3Dプリンタ技術を地域企業、地域住民へ広く紹介する。

助成額：100,000円

期間：平成29年7月1日～平成30年3月31日

2. 企画名：学生による大江町魅力発信プロジェクト

団体名：D-lab、代表 布施果歩（東北芸術工科大学）

目的：山形県大江町に将来的に移住者を増やすことを目的とし、町のPR活動を行う。

内容：大江町の魅力を伝えるために町で店を営む人や住んでいるお年寄りなど、人にスポットをあてた内容の冊子（1,000部）を作成し、町内外へ配布するとともに動画制作など様々な媒体を制作し発信する。

助成額：100,000円

期間：平成29年7月1日～平成29年12月31日

2 企画会議事業

「ゆうキャンパス・ステーション」を中心に、「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」を企画・実施する。

(1) 「やまがた夜話」

5月～2月の毎週水曜日（変則開催有）18:30～19:30に「ゆうキャンパス・ステーション」で開講。

・延べ受講者数 1,238人（前年度 1,318人）



平成29年度「やまがた夜話」実施一覧

●5月 テーマ:今さら聞けない?江戸のしくみ (4回)

回数	期日	題目	氏名	所属・職名	受講者数
1	5月9日(火)	生活のしくみ 世間・お金・暦	山本 陽史	山形大学学術研究院教授	57
2	5月16日(火)	芸能界のしくみ 歌舞伎・浄瑠璃・放浪芸	山本 陽史	山形大学学術研究院教授	55
3	5月24日(水)	俳人のしくみ 芭蕉・蕪村・一茶	山本 陽史	山形大学学術研究院教授	52
4	5月31日(水)	大衆文学のしくみ 出版と戯作・浮世絵	山本 陽史	山形大学学術研究院教授	54

218

●6月 テーマ:知っておきたい「感染症」 (4回)

5	6月7日(水)	インフルエンザ	八幡 芳和	山形県立米沢栄養大学教授	26
6	6月13日(火)	SARS(サーズ)	八幡 芳和	山形県立米沢栄養大学教授	20
7	6月21日(水)	AIDS(エイズ)	八幡 芳和	山形県立米沢栄養大学教授	22
8	6月28日(水)	ツツガムシ病	八幡 芳和	山形県立米沢栄養大学教授	21

89

●9月 テーマ:月山に学び、地域を知るⅢ (5回)

9	8月30日(水)	月山の地形と景観	奈佐 國男	月山マイスタ	42
10	9月5日(火)	芭蕉の歩いた「出羽路」と「月山登拝」を読み直す	田中 秀樹	月山マイスター	48
11	9月13日(水)	2つの日本遺産を育んできた大地・月山	高野 昌二	月山マイスター	50

12	9月20日(水)	出羽三山八方七口	児玉 勝義	月山マイスター	43
13	9月27日(水)	月山周辺の防災	大類 正法	月山マイスター	43

226

●10月 テーマ:健康長寿へのみちしるべ (4回)

14	10月4日(水)	平均寿命と健康寿命	内田 勝雄	山形県立保健医療大学 名誉教授	32
15	10月11日(水)	脂肪は悪もの?	内田 勝雄	山形県立保健医療大学 名誉教授	30
16	10月18日(水)	諸刃の剣 -酸素-	内田 勝雄	山形県立保健医療大学 名誉教授	34
17	10月25日(水)	楽すれば苦あり	内田 勝雄	山形県立保健医療大学 名誉教授	29

125

●11月 テーマ:「世間」の話 (4回)

18	11月2日(木)	日本にはキリスト教徒がなぜすくないのか ～集団と個人	山本 陽史	山形大学学術研究院 教授	45
19	11月8日(水)	傷ついた日本人はなぜ北へ向かうのか ～世間の中の東北	山本 陽史	山形大学学術研究院 教授	42
20	11月16日(木)	文学に世間はどうか描かれているか ～万葉から漱石、山崎豊子まで	山本 陽史	山形大学学術研究院 教授	44
21	11月30日(木)	就活でなぜリクルートルックを着るのか ～世間の今と明日	山本 陽史	山形大学学術研究院 教授	40

171

●12月～2月 テーマ:放送大学山形学習センター教養講座 (7回)

22	12月20日(水)	ライフサイクルからみる思春期・青年期の メンタルヘルス	佐藤 宏平	放送大学客員准教授/山形 大学准教授・地域教育 文化学部担当	26
23	1月10日(水)	植物性プラスチックって何	栗山 恭直	放送大学客員教授/山形 大学教授・理学部担当	22
24	1月11日(木)	ことばの ^{オン} 音に耳を澄ます	富田かおる	放送大学客員教授/山形 大学教授・人文社会科学 部担当	21
25	1月31日(水)	西郷隆盛と日本人	山本 陽史	放送大学客員教授/山形 大学教授・EM部担当	52
26	2月7日(水)	「論理的に記述する」とは?	下平 裕之	放送大学客員教授/山形 大学教授・人文社会科学 部担当	39
27	2月14日(水)	みなさん知ってますか?このマーク!	千葉 登	放送大学客員准教授/山 形県立保健医療大学准 教授	25
28	2月23日(金)	福島第一原発事故後5年間の山形県の 放射能環境の推移	櫻井 敬久	放送大学山形学習センタ ー所長/山形大学名誉教 授	37

222

●2月 テーマ:文化財のゲンバ (4回)

29	2月1日(木)	中はどうなってるのだろう ～X線CTで隠された仏像の姿・形を見る	加藤 和歳	九州歴史資料館 学芸調 査室 保存管理班長	52
30	2月8日(木)	クラウドファンディングから始まる仏像の 修復と継承	宮本 晶朗	株式会社文化財マネー メント 代表取締役	43
31	2月15日(木)	巧みな構造体からなる日本寺院建築の 優雅な姿	高橋 洋二	株式会社加藤工匠 現場 棟梁	43
32	2月22日(木)	仏像の帰るところはどこ? 流転の仏の過 去・現在・未来	渡邊 真吾	有限会社東北古典彫刻 修復研究所 副所長	49

187

延べ人数 1,238

(2) その他、各種講習会・イベントの企画・実施

1. 山形大学男女共同参画シンポジウム【共催】

「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」

日 時：平成29年12月4日（月）13：15～16：30

会 場：米沢市 山形大学米沢キャンパス11号館2階未来ホール

主 催：山形大学、県立米沢栄養大学、大日本印刷株式会社研究開発センター

参加者数：133人

- 内 容：(1)基調講演「女性研究者支援・育成の現状と今後～未来の生活創造への女性研究者の参画～」 国立研究開発法人 科学技術振興機構 山本恵司プログラム主管
(2)取組報告「ダイバーシティ研究環境の実現に向けて～3年間の実績報告と今後の展開について～」 ①3年間の実績報告 ②COIと連携した展開
(3)研究成果報告 ①女性代表共同研究 ②研究支援員制度
(4)サービスデザイン・プロジェクト報告

2. 小学生を対象とした体験型学習の開催【主催】

小学生対象体験学習イベント

「イヌワシふれあい体験 in やまがた 2017」

日 時：平成29年11月12日（日）

場 所：ゆうキャンパス・ステーション

参加者数：小学生と保護者18家族 34名

内 容：第1部 講演

「やまがたのしぜん～いきものと人とイヌワシと」

講師：高橋 誠（イヌワシの森倶楽部 代表）

第2部 体験学習

「イヌワシを間近で見て体感！」

講師：松原 英俊（日本唯一の現役・鷹匠）

※HPへ掲載



3. プロスポーツを活用した中山間地域活性化活動の開催【主催】

「モンテディオ山形杯 雪中棚田サッカー大会 in 大蔵 2018」

日 時：平成30年2月17日（土）

場 所：山辺町大蔵地区

参 加：一般10チーム、モンテディオジュニアユース
2チームの計12チーム

参加人数：選手80人、スタッフ40人（芸工大学生ボランティア10人を含む）の120人

※HPへ掲載



山形講座フォローアップ事業 (担当：企画会議)

大学間連携共同教育推進事業の連携校による継続的取り組みとして、以下の事業を行った。

①山形講座の開設 (リーダーシップ教育の講座開設)

学生向け公開講座「これからのリーダーシップを考える」

日 時：平成30年2月7日(水)、8日(木)

場 所：ゆうキャンパス・ステーション

講 師：柴田 孝 (山形大学客員教授)

受講者：山形県立米沢女子短期大学4名、山形大学2名、
放送大学1名



②共同教育FDの実施

共同教育FD研修会を2回開催した。

研修名：山形大学教員研修会「第19回基盤教育ワークショップ」

日 時：平成29年9月8日(金) 10時から16時30分まで

会 場：山形大学小白川キャンパス 基盤教育1号館

内 容：第1部 基調講演

演題：「改革に役立つカリキュラムマップの実践例：追大はモデルとなるか」

講師：追手門学院大学 基盤教育機構長 教授 池田 輝政

第2部 ラウンドテーブル

第1分科会：「学士課程教育の質保証～直接評価と基盤力テスト～」

コーディネーター：山形大学 学術研究院 学士課程基盤教育機構
教授 千代 勝実

第2分科会：「初年次教育のコア・カリキュラムを考える

～山形大学導入科目改革 スタートアップセミナーの事例～」

コーディネーター：山形大学学術研究院 理学部教授 栗山 恭直

第3分科会：「地域連携型キャリア教育の取組～実践と評価のポイントについて～」

コーディネーター：山形大学 学術研究院 学士課程基盤教育機構
准教授 松坂 暢浩

※本コンソーシアムからは12名が参加

研修名：「大学教育における社会人力の育成について」

日 時：平成30年2月26日(月) 16時から17時40分まで

会 場：ゆうキャンパス・ステーション

参加者：東北文教大学1名、東北芸術工科大学2名、東北公益文科大学2名、山形大学3名

内 容：1 大学間連携共同教育推進事業事後評価結果(案)について

2 大学教育における社会人力の育成について

③山形地域志向型科目等の広報（単位互換制度の広報）

・実施せず。

連携事業（担当：事務局）

（１）単位互換の推進

1. 単位互換推進チラシ等を作成。
2. 単位互換受講者数 前期 延13人、後期 延12人、合計 延25人。詳細は下表のとおり。
3. 「ゆうキャンパス単位互換」履修学生交通費支援制度により下記のとおり支援を行った。

交通費支援制度利用者数 前期6人、後期4人、合計10人。

（東北公益文科大学 1人 山形県立米沢女子短期大学 9人）

【前期】

派遣大学等	受入大学等	科目名	人数
山形大学	放送大学	認知心理学(`13)	1
		心理臨床の基礎(`14)	1
東北芸術工科大学	山形大学	論理学概論	1
東北芸術工科大学	放送大学	「ひと学」への招待(`12)	1
山形県立米沢女子短期大学	山形大学	社会政策論	1
		金融論	1
		ミクロ経済学	1
		国際法	1
		地域の国際化	1
山形県立米沢女子短期大学	東北芸術工科大学	色彩学	2
		西洋建築史	1
		インテリアデザイン特講	1
前期合計			13

【後期】

派遣大学等	受入大学等	科目名	人数
山形大学	東北芸術工科大学	広告ビジネス基礎	1
山形大学	放送大学	入門線形代数学(`14)	1
		入門微分積分学(`16)	1
東北芸術工科大学	山形大学	国際協力論	1
東北芸術工科大学	放送大学	文化人類学(`14)	1
東北公益文科大学	山形大学	コーチング論	1
		スポーツ情報処理論	1

山形県立米沢女子短期大学	山形大学	国際組織法	1
山形県立米沢女子短期大学	東北芸術工科大学	日本建築史	2
		文芸論6	1
		埋蔵文化財保存学	1
後期合計			12

(2) 大学等進学説明会

高校生への進学意識形成や進学選択を支援するとともに、コンソーシアム加盟機関への進学率アップを目指して「大学等進学説明会」を開催した。

平成29年度開催高校数 13校

平成29年度大学等進学説明会一覧（参加生徒数：延1,738名 参加保護者数：56名）

NO	高校名	開催日時	実施形態 参加数計等	参加機関名 () は参加数内訳	参加 延数
1	県立天童高校	5月19日(金) 13:30-15:25	大学・学部・学科説明、模擬講義 (1学年 161名) ①～⑤の5グループで開催	東北芸術工科大学 ①	①48 ②26 ③19 ④42 ⑤26
				東北公益文科大学 ②	
				東北文教大学 ⑤	
				県立産業技術短期大学校 ①	
				県立保健医療大学 ④看護、③理学療法、③作業療法	
				県立米沢栄養大学 ④	
山形大学 ②人文社会科学部、⑤地域教育文化学部					
2	県立小国高校	5月31日(水) 14:00-15:10	個別進学相談、模擬講義 (2～3学年 28名)	羽陽学園短期大学	3
				東北公益文科大学	13
				東北文教大学短期大学部 子ども	2
				県立産業技術短期大学校	2
				県立保健医療大学 看護(7)、理学療法(1)	8
3	県立酒田西高校	6月8日(木) 14:00-15:55	各学部・学科の学びの内容の説明 (2学年 173名) 2回開催 延346名	東北芸術工科大学	15
				東北公益文科大学	6
				東北文教大学・同短期大学部	29
				県立保健医療大学 理学療法(28)、作業療法(19)	47
				県立米沢栄養大学	21
				県立米沢女子短期大学	22

				山形大学 人文社会科学部(57)、地域教育文化学部(48)、理学部(31)、医学部(看護)(30)、工学部(27)、農学部(13)	206
4	米沢中央高校	6月14日(水) 13:10-15:05	模擬講義 (1-3学年 特進コース 141名)	東北芸術工科大学	7
				東北公益文科大学	11
				東北文教大学	20
				県立産業技術短期大学校	9
				県立保健医療大学 作業療法	24
				山形大学 人文社会科学部(30)、理学部(20)、工学部(20)	70
5	県立鶴岡工業高校	6月30日(金) 10:30-12:35	個別進学相談、講話 (1~3学年 工学部系進 学希望者) 2回開催 延128名	鶴岡工業高等専門学校	44
				県立産業技術短期大学校庄内校 制御機械(5)、電子情報(21)	26
				山形大学 工学部	58
6	県立寒河江工業高校	7月5日(水) 12:30-15:00	個別進学相談 (2学年 22 名)	羽陽学園短期大学	3
				東北芸術工科大学	2
				東北文教大学短期大学部	1
				県立産業技術短期大学校	9
				山形大学 工学部	7
7	県立谷地高校	7月13日(木) 13:10-15:15	模擬講義 (1-2学年 204名)	羽陽学園短期大学	25
				東北芸術工科大学	32
				東北文教大学短期大学部 人間福祉	11
				県立保健医療大学 看護	46
				県立米沢栄養大学	31
				山形大学 人文社会科学部(35)、地域教育文化学部(19)、農学部(5)	59
8	県立庄内農業高校	7月20日(木) 12:50-14:00	個別進学相談 (2,3学年 19名)	羽陽学園短期大学	2
				東北公益文科大学	4
				県立農林大学校	11
				山形大学 農学部	2
9	県立新庄南高校	9月14日(木) 12:55-15:10	模擬講義 (1-2学年 193名)	羽陽学園短期大学	28
				東北芸術工科大学	30
				東北公益文科大学	40
				東北文教大学短期大学部 人間福祉	34
				県立保健医療大学 看護	31
				県立米沢女子短期大学 日本史	14
山形大学 地域教育文化学部	16				

10	新庄東高校	9月26日(火) 13:15-15:30	模擬講義 (2学年 75名)	東北公益文科大学	13
				東北文教大学	24
				県立保健医療大学 看護	6
				山形大学 人文社会科学部(10)、地域教育文化学部(22)	32
11	県立山形北高校	11月24日(金) 15:35-17:00	学部・学科説明 (1学年 199名及び 1,2年保護者 56名 計 255名)	県立保健医療大学 看護(30)、理学療法(17)、作業療法(5)	52
				県立米沢栄養大学	9
				山形大学 人文社会科学部(69)、地域教育文化学部(95)、理学部(8)、医学部(看護)(4)、工学部(10)、農学部(8)	194
12	県立鶴岡中央高校	12月6日(水) 13:00-16:00	模擬講義 (2学年 120名+総合学科 希望者 計 176名)	羽陽学園短期大学	11
				東北芸術工科大学	11
				東北公益文科大学	23
				東北文教大学	12
				県立産業技術短期大学校庄内校 電子情報(8)、国際経営(14)	22
				県立保健医療大学 看護(24)、作業療法(19)	43
				県立米沢栄養大学	10
				県立米沢女子短期大学 社会情報	14
				山形大学 人文社会科学部(15)、地域教育文化学部(6)、工学部(9)	30
13	県立北村山高校	12月14日(木) 13:15-15:20	進学説明 (2学年進学 希望者) 2回開催 延 46名	羽陽学園短期大学	13
				東北芸術工科大学	10
				東北公益文科大学	12
				東北文教大学・同短期大学部	11



谷地高等学校



山形北高等学校

教職員の交流事業 (担当：事務局)

「第14回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」へ参加した。

期間：平成29年10月7日（土）～8日（日）

会場：沖縄県国頭郡恩納村 沖縄科学技術大学院大学

参加者：山形大学教育・学生支援部長 伊藤 雅彦

テーマ：「大学コンソーシアムとボランティア」

【1日目】

基調講演：「世界平和と開発を推進するユースボランティア」

講師 Olivier Adam (国連ボランティア計画 (UNV) 事務局長)

講演 I：「みんな地球に生きるひと」

講師：Agnes Chan (歌手・教育博士)

講演 II：「OISTと日本の将来について」

講師：Peter Gruss (沖縄科学技術大学院大学)

シンポジウム：「大学コンソーシアムとボランティア」

【2日目】

第1分科会：持続可能な発展と環境法政策

第2分科会：ボランティアリズムによる人づくり

第3分科会：産学の「連携」から「共創」へ

第4分科会：地域貢献とボランティア

第5分科会：災害時に活躍できる学生ボランティア育成の現状と展望

—京都、秋田における防災教育の取り組み事例から—

広報事業 (担当：事務局)

(1) ゆうキャンパス広報パンフレットの作成

広報パンフレット4, 300部を作成し、県内高校及び加盟機関へ配布した。

PRグッズとして名入り付箋紙を作成した。

(2) ゆうキャンパスホームページ等の充実・管理

HPの内容を随時更新し、内容を充実させた。

大学コンソーシアムやまがた 総訪問者数 41674 一日あたり 52 (2015-2018.3.6 現在)

ゆうキャンパスNAVI 総訪問者数 13392 一日あたり 12 (2015-2018.3.6 現在)

(3) ゆうキャンパス・ステーションの充実

ゆうキャンパス・ステーションの開放及び貸出しを行った。(貸出回数：200回)

参考：スケジュール http://consortium-yamagata.jp/?page_id=96

加盟校の学校案内、各種イベントポスター、チラシ、地域情報の提供などを積極的に行った。

協力事業 (担当：事務局)

【協力】 日本一さくらんぼ祭り実行委員会

事業名：第6回 日本一さくらんぼ祭り

日時：平成29年6月17日（土）10:00～16:00

内容：下記の学生8団体がやまがたゆうキャンパス・ステージに出演し、パフォーマンスを行った。

- ① 山形大学 マンドリンクラブ
- ② 山形大学 コピーダンスサークル twinkle
- ③ 山形大学 JAZZ 研究会
- ④ 山形大学 うたごえサークルとまり火
- ⑤ 東北文教大学 軽音楽部 Scottle
- ⑥ 山形大学チアダンスサークル Cherries
- ⑦ 花笠サークル四面楚歌
- ⑧ 羽陽学園短期大学アシナミ



事業評価

事業評価委員会による事業評価を実施した。

第1回委員会：平成29年7月19日

- ・評価方法を検討し、アンケートを実施してその分析をして評価することを確認。

第2回委員会：平成29年9月25日

- ・アンケートの集約結果の確認と事業評価報告書（案）の検討。
- ・各事業の分析・意見の聴取と評価のとりまとめ。
- ・負担金の考え方などの検討。

第3回委員会：平成29年10月20日

- ・「負担金について」および「まとめ」について最終的な検討。

報告書の提出：平成29年11月15日

- ・幹事会委員長へ事業評価報告書を提出。

第14回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告書

テーマ：「大学コンソーシアムとボランティア」

期 日：平成29年10月7日（土）、8日（日）

場 所：沖縄科学技術大学院大学（OIST）

参加者：伊藤雅彦（山形大学教育・学生支援部長）

10月7日

- 1 基調講演：「世界平和と開発を推進するユースボランティア」
講師 Olivier Adam（国連ボランティア計画（UNV）事務局長）
- 2 講演 I：「みんな地球に生きるひと」
講師：Agnes Chan（歌手・教育博士）
- 3 講演 II：「OISTと日本の将来について」
講師：Peter Gruss（沖縄科学技術大学院大学 学長）
- 4 シンポジウム：「大学コンソーシアムとボランティア」
（内容） ボランティアに関する授業を起こし、単位化することなどが話題になった。
賛否両論。

10月8日

【分科会】第5分科会「災害時に活躍できる学生ボランティア育成の現状と展望」

- 龍谷大学政策学部 石原凌河講師，日本赤十字秋田短期大学 及川真一助教による発表の後，質疑応答。

発表内容は、「予稿集」参照。

- ・ 「災害現場」へのアプローチ方法が大事。
- ・ 「災害現場」と「教育」との齟齬。
- ・ 災害現場で解決すべきことが、ボランティアに頼り切ることにならないような方策が必要。
- ・ ボランティア活動に「学びの視点」がないと、作業のみの活動に陥る。
- ・ 被災者抜きのボランティア活動は、手段と目的を混同してしまいがち。
- ・ ボランティアに関心を持ってもらうには、「仕掛け」が必要。秋田短期大学では、この仕掛けについて、「キャンプ」を取り入れた。通常のキャンプを行う中に、災害ボランティアとして必要となる様々な体験項目を入れ込み、プログラムを作成。
- ・ ボランティアに関する内容を授業として、教育として確立させるのは難しい。したがって単位化はしていない。
- ・ 「自身の研究の一つとして行っている」ということで、学内では承知してもらっている。そうしないと学内でのコンセンサスは得にくい。
- ・ 新聞社、銀行、企業、県内の大学に働きかけ、スポンサーになってもらうことで、経費負担を低減。
- ・ ボランティア活動として、東松島、七ヶ浜、熊本などでの活動内容が紹介された。

【新聞記事】

2017年(平成29年)10月12日(木曜日)

山形大・山本教授
「世間テーマ」に講座
「世間の大学がさかかくる」
「大学コンソーシアムやまがた」

山形市で、山形大学が主催する「世間の大学がさかかくる」講座が、10月12日(木曜日)午後4時から、山形大学山形キャンパスの「世間の大学がさかかくる」講義室で開催された。山本教授は、山形大学の歴史や、山形大学の特色について、山形大学の学生や教職員、市民ら約100人が参加して聴講した。

山本教授は、山形大学の歴史や、山形大学の特色について、山形大学の学生や教職員、市民ら約100人が参加して聴講した。

山本教授は、山形大学の歴史や、山形大学の特色について、山形大学の学生や教職員、市民ら約100人が参加して聴講した。

2018年(平成30年)1月25日(木曜日)

雪の上でサッカーやろう
来月17日、山辺 棚田が会場 参加募集

山辺町大で開かれる、主に冬をモンテのジュニアユースチームも参加予定。大会コンソーシアムやまがたが主催している「雪の上でサッカーやろう」大会が、来月17日(日曜日)に山辺町大の山辺 棚田で開かれる。大会コンソーシアムやまがたが主催している「雪の上でサッカーやろう」大会が、来月17日(日曜日)に山辺町大の山辺 棚田で開かれる。

大会コンソーシアムやまがたが主催している「雪の上でサッカーやろう」大会が、来月17日(日曜日)に山辺町大の山辺 棚田で開かれる。

2018年(平成30年)2月1日(木曜日)

棚田で雪中サッカー
参加10チーム募る
17日、山辺・大蔵

山辺町大で開かれる、主に冬をモンテのジュニアユースチームも参加予定。大会コンソーシアムやまがたが主催している「雪の上でサッカーやろう」大会が、来月17日(日曜日)に山辺町大の山辺 棚田で開かれる。

大会コンソーシアムやまがたが主催している「雪の上でサッカーやろう」大会が、来月17日(日曜日)に山辺町大の山辺 棚田で開かれる。

2018年(平成30年)2月18日(日曜日)



棚田のピッチで熱戦
山辺町大で開かれる、主に冬をモンテのジュニアユースチームも参加予定。大会コンソーシアムやまがたが主催している「雪の上でサッカーやろう」大会が、来月17日(日曜日)に山辺町大の山辺 棚田で開かれる。

大会コンソーシアムやまがたが主催している「雪の上でサッカーやろう」大会が、来月17日(日曜日)に山辺町大の山辺 棚田で開かれる。

以上

活動実績書

団体名 鶴岡高専 AM デザイン部
 代表者 田村 隆一

企画名	地域産業に向けた 3D プリンタを活用した AM デザイン作品の実演展示	
目的 (活動によって期待される、地域活性化の具体的な内容)	AM デザイン部における対外活動として、全国高専デザインコンペティションへの出品がある。そのデザインコンペティション用に社会実装を目指し製作した作品を庄内地区産業まつり（さかた産業フェア 2017, つるおか大産業まつり 2017）にて、地域企業、地域住民の方々へ紹介する。また、実演、体験を通じ、3D プリンタを活用した AM デザインの重要性や、身近な技術として広く認識してもらうことを目的とする。高専生が 3D プリンタを有効活用することにより、地域企業、地域住民の方々への 3D プリンタ技術の紹介や、アイデア次第での製品開発や生活利用などの応用が期待される。	
内容 (具体的に)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高等専門学校デザインコンペティション：A チーム【ドアクッション】指はさみ防止器具，B チーム【gividas】視覚障害者用誘導デバイスにて予選会に応募したものの、予選敗退となった。実用化重視の傾向があり、市場調査や特許などの知的財産関連調査も必要であることを学んだ。 ・さかた産業フェア 2017：平成 29 年 9 月 30 日（土），10 月 1 日（日）校内選考にて不参加 ・つるおか大産業まつり 2017：平成 29 年 10 月 14 日（土），10 月 15 日（日）県内企業や地域住民へ 3D プリンタを活用した AM デザインの重要性や、身近な技術として広く認識してもらうことができた。 <p>以下、URL にて情報発信済みである。 http://www.tsuruoka-nct.ac.jp/oshirase/2017/10/26/19747/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 19 回 鶴峰祭：平成 29 年 10 月 28 日（土），10 月 29 日（日）公開展示にて、学内外の方へ AM デザイン部での作品を紹介した。 ・ビジネスマッチ東北 2017：平成 29 年 11 月 9 日（木）来場者からの反応も良く、特にアイリスオーヤマの製品開発担当者の方は、大変興味を持っていただいた。 	 <p>ドアクッションのモデル</p>  <p>つるおか大産業まつり 2017 での出展風景</p>
実施時期	平成 29 年 7 月 1 日※助成決定後 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	

活動計画(実績)書

団体名 D-lab.
代表者 布施果歩

企画名	学生による大江町の魅力発信プロジェクト
目的 (活動によって期待される、地域活性化の具体的な内容)	山形県大江町の移住促進を目的としたPR活動。 町の魅力を伝えるには、まずは町民が町の魅力に気づき、愛着を持つことが大切である。町民が誇りを持ち、町の自慢をすることが一番のPR活動であり、それが移住に結びつくと考えた。そのため、イベントの開催、情報発信誌の制作を通して、それらを実現すべく活動する。
内容 (具体的に)	<p>◎ワークショップ「まねぶBAR」の開催</p> <p>このプロジェクトを進めるにあたり町民へのヒアリング調査を行ったところ、町民が町の資源を魅力として認識していない、活用方法を見出せていない、舟運文化で栄えた町である大江町の商店街の衰退などの課題が見えた。私たちはそれらを認識してもらうことがこの活動の目的に対して重要な1つ目のステップだと考え、まずは町の資源に気づき、活用方法を考えるイベントを、町内外の20代～30代の若い世代をターゲットに「まねぶBAR」と題してワークショップを2回開催した。</p> <p>第1回 日時：11月16日 19:30-21:30 場所：大江町縁屋 参加人数：26名 テーマ「大江町でのナリワイづくり～ナリワイの考え方を学ぼう～」</p> <p>第2回 日時：12月21日 9:30-21:30 場所：大江町縁屋 参加人数：15名 テーマ「大江町でのナリワイづくり～自分のナリワイをつくろう～」</p> <p>第1回目では町内外のサラリーマンやOL、大学生、大学教員合計26名が参加した。ナリワイづくりの第一人者である伊藤洋志さんを講師にお招き</p>

	<p>し、資源の見つけ方やその活用方法、自分の興味や特技と資源、身の回りの困りごとを組み合わせながら小さな仕事をつくっていく実践方法をお聞きした。その後自分で実践するための付箋を使った簡単なワークショップを実施した。アンケートからは「大江町にこんなにもいいものや場所があることを知らなかった」「自分の特技を生かす方法を知れた」といった感想を得ることができた。</p> <p>第2回目では、1回目での公演内容をもとに、より実践に移していくためのアイデア出しのワークショップを行った。各々が大江町の資源を生かしたアイデアを出しあい、中にはパン作りが得意な方とデザイナー、DIY好きの男性でチームができ、「漬物ハンバーガー」という店を出すための計画書が出来上がるといったことも起きた。</p> <p>こうして町の資源をいかに使うか考える場を作ったことで、参加者が町の魅力認識し、それぞれが SNS での発信を行うといったことに繋がった。また、ここで出たアイデアはイベント終了後も自主的な活動が行われ、実現に向けて動きだしており、起業促進にも繋がった。</p> <p>◎大江町の情報発信誌「帆」の制作</p> <p>大江町には町から発信されている情報発信誌しかなく、内容の自由度が低く、十分な情報を町外へ発信できていないという課題があり、これが制作に至った1番の理由だ。移住促進を目的に各号、仕事や子育て、福祉といった様々な切り口から発信すべく、今回は「仕事」をテーマに大江町で働く若者を取り上げた。また、普段は取り上げられないような町のイベント情報も掲載した。紙面のデザインは、若者の感情に問いかけやすく、大江町の雰囲気伝えるためにフィルム写真にこだわった。配布後、この冊子を見て大江町を訪れた方が多数いるという情報が町民から寄せられている。また「次号の発行はいつか」といった問い合わせも多く、多くの人々に期待してもらえる媒体が作ることができた。</p> <p>A4 16p フルカラー 325冊</p> <p>配布場所：町内の主要施設、カフェ、山形市の若者に人気のカフェ、大学など</p>
実施時期	平成 29 年 7 月 1 日 ～ 平成 30 年 2 月 12 日

※2 頁以内にまとめてください。